

土砂災害に備える訓練実施

6/28

局地的豪雨に備えた土砂災害防災訓練を行いました

接岨地区集会所で土砂災害防災訓練が実施されました。住民や役場職員など約20名が参加し、土砂災害の危険性や新しい防災気象情報の説明、避難行動の訓練を行いました。近年では「局地的豪雨」が増えています。町ではさまざまな防災情報を発信し、全戸にハザードマップを配布していますので、家族で避難場所や安全対策を話し合い、いざという時の備えをしましょう。災害時には、自助・共助・公助の連携が最も大切です。

公開しているハザードマップは、
二次元コードからもご覧いただけます。



役場職員が土砂災害の危険性等を説明の様子

寸又峡で夏山安全祈願祭

7/4

夏山の安全を願い祈願祭とトレッキングを開催

夏山シーズンを前に大間区公民館において、登山者の安全と無事を願う安全祈願祭を行いました。まちづくり観光協会が主催し、寸又峡の関係者の協力で毎年続けている行事です。

午後には、静岡市井川出身の山岳ランナーで現役の山岳救助隊員でもある望月将悟さんを迎え、沢口山トレッキングを実施。町内外から集まった約20名の参加者は、登山の楽しみ方や安全に関する注意点を学びました。望月さんは、遭難時の捜索をスムーズにするために「登山届」の提出が不可欠であることを呼びかけました。



沢口山登山口で入山の注意点を話す望月さん(左)

園児とインターン生の国際交流

7/6

フランス人インターン生と園児が楽しく交流しました

町内3園の保育園年長児とフランスからのインターン生4名による国際交流会が開かれました。

インターン生と園児たちは、フランス語でのじゃんけんをしたり、花いちもんめやカルタをグループで行ったりするなど、言葉と遊びを通じて交流を深めました。この取り組みは、多文化共生推進事業の一環として本年度実施され、園児たちが異文化に触れる貴重な体験となりました。

インターン生のレオンさんは、「お会いした地域の方々が優しく接してくれてうれしかった。また絶対に川根本町を訪れたいです」と語っています。



三ツ星保育園で園児と遊ぶインターン生

伝統行事平谷の流したいを開催

7/14

瀬平地区でたいまつを流し無病息災を祈願

7月14日夕方、瀬平地区で町指定無形民俗文化財「平谷の流したい」が行われ、地元住民約30人が参加しました。この行事は、大井川にたいまつを流して1年の無病息災を願う伝統行事。住民たちは河川敷に集まり、麦わらと竹で直径約2.5メートルの輪を作り、その中心に竹で編んだ籠とたいまつを立て「たい」を完成させました。その後、たいまつに火をともし、ゆっくりと川へ流しました。

平谷の流したいは、1828年に起こった大洪水の犠牲者を供養し、災厄を鎮めるために始まったと伝えられています。



たいを流す地区の皆さん

三ツ星天文台が営業再開

7/18

約1年半ぶりに観測を再開しました

三ツ星天文台が、昨年3月の休止から機器の修理と更新を終え、営業を再開しました。

再開後初の一般利用では約10名が参加し、双眼鏡や望遠鏡で熱心に星を観察。あいにくの天気の中에서도、雲の切れ間から星座を観測をすることができました。

三ツ星天文台は2001年に開館し、町内の天体愛好家団体「三ツ星アストロノミークラブ (M3C)」が星空解説をしています。今後は土曜日を中心に事前予約制で開館しています。



望遠鏡をのぞき込む利用者

接岨湖で水上アクティビティ体験

7/19

町内外から約150人がカヌーやSUPを満喫

奥大井接岨湖カヌー競技場で「水上アクティビティ体験フェス」が初開催され、町内外から約150人が参加しました。これらは田村駒株式会社(大阪府)が企業版ふるさと納税制度を通じて寄付したカヤック30艇とSUPボード50枚を活用しています。

このイベントは水辺の魅力を引き出す官民協働プロジェクト「ミズベリング事業」の一環で、町はパドルスポーツのまちづくりに取り組んでいます。本年度からはカヤックとSUPのレンタル事業も始まり、接岨湖での水上レジャーがより気軽に楽しめるようになりました。



接岨湖でSUP体験を楽しむ参加者

音戯の郷で喫茶を楽しむ

7/22

7/23

個性豊かなチャレンジショップが期間限定で登場

奥大井音戯の郷ラウンジに2つの喫茶店がオープンしました。いずれも11月末まで営業します。

■ Senzu Friends フローズンフルーツショップ (営業日：月・水・木・金・日曜日)

「自然豊かな川根でナチュラルな食べ物を楽しんでもらいたい」と笑顔で語るのは、1年前に久保尾へ移住したソフィアさん。アメリカにいた頃からお店を開きたいという思いがあり、チャレンジショップを知ったことをきっかけに出店を決意しました。現在は、妹のマリアさんと二人で店を営み、フルーツ100%のジェラートを中心に、寒天ドリンクなどヘルシーで体に優しいメニューを提供しています。



フローズンフルーツアイスを提供する
ソフィアさん(左)とマリアさん(右)

■ 川根茶が楽しめる駄菓子屋「かわねじかん」 (営業日：第2・第4土曜日)

川根茶を味わいながら、子どもから大人まで気軽に過ごせる「かわねじかん」。鈴木茶苑(徳山区)の鈴木かほりさんが中心となり、高畑園・仁木のお茶・木村農園・川根たっちゃん農園のメンバーと協力して出店しました。メンバーは、毎年11月23日に開催する呈茶イベント「川根時間」をきっかけに集まり、その後も町内外のイベントに積極的に出店しています。今回、「夏休みに子どもたちが交流できる場をつくりたい。多様な川根茶をもっと知ってほしい」と初めて店舗営業に挑戦しました。チャレンジショップ終了後について鈴木さんは「今後も子どもたちが交流でき、お店を構えられるスペースがあれば続けたい」と語っています。



笑顔で接客する鈴木さん親子

町茶品評会で優秀者決まる

7/28

手摘みと機械摘み部門で優等を受賞

町茶業振興協議会主催の茶品評会が農林業センターで開催されました。手摘みの部では相藤農園・相藤直紀さんと相藤園・相藤裕次さん、機械摘みの部では丹野園・丹野浩之さんが最高賞の優等選ばれました。当日は、両部門合わせて15点の出品があり、農研機構の水上裕造^{みずかみゆうぞう}上級研究員をはじめとする専門家が厳正に審査を行いました。

品評会終了後には、病虫害対策や夏場の茶園管理についての講習も行われ、茶生産技術向上につながる内容となりました。同会は、高品質な茶の生産振興を通じて、地域農業の発展に努めています。



香気を評価する審査員